

研究大学強化促進事業に関する意見書の取りまとめ

A:優れている

B:良好である

C:不十分である

1. RU事業の活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1) 計画に沿った活動状況であるかについて	A	評価者：A	URA の充実が目立ち、順調に進行していると思われる。
	A	評価者：B	領域性の拡大、産官学連携の推進、URA の活躍、ランキング等成果の可視化、女性研究者支援など、概ね計画通り順調に進められている。
	A	評価者：C	計画の中で、うまくいっているところを伸ばし、行き詰まりについては柔軟に方向転換している点も含め、体制構築や、パフォーマンス強化に向けた取組、その推進状況のモニター、強み弱みの分析とその対策と立案実施など、全体的にバランスよく進めている。
	A	評価者：D	途中で気づいた問題点をとらえて、またコメントに沿って、見事に修正をして、順調に活動している。
	A	評価者：E	計画に沿って順調に進んでいると評価できる。
(2) 平成 25 年度外部評価にて指摘した内容が改善されているかについて	A	評価者：A	外部評価で指摘した点、特に国際化の推進について綿密な対応が行なわれており、高く評価したい。
	B	評価者：B	医療系 URA で生物統計家等、臨床研究支援にとって必須のスペシャリストが充分でないように見受けられるが、一部「外注」という説明で了解。
	B	評価者：C	自分の指摘については、(URA の周知、科研費件数増加、強味の伸長など) そこここ改善されているが、科研費総額の増加や他委員への指摘への対応など、改善しきれていない点もある。
	A	評価者：D	多くの点を真剣にとらえて、改善するための努力がしっかりとされている。
	A	評価者：E	概ねよく対応頂いていると評価できる。
(3) 事業活動の進捗状況等について (全般的評価)	A	評価者：A	ワーキングシェア、外国人教員をはじめ多くの取組が行なわれており、今後の進捗が期待される。
	A	評価者：B	自己評価が客観的になされ、一部目標の「断念・新研究科構想」など、軌道修正や改善に適格に活かされている。

	A	評価者：C	領域性の全分野への適用、知財収入や大型産学連携件数の増加、IRに基づく歯学部の世界ランキングの向上など、目をみはる成果をあげている。「強み弱み分析に基づいた産学連携対応」、「IRに基づく歯学部の世界ランキングの向上」のように、PDCAのステップを結んで改善している点が素晴らしい。
	A	評価者：D	URAが確実なデータを集め、丁寧に分析をして、改善点を的確に示していると思われる。それに応じて、学長、理事、副学長が適切な改善、改良に向けて組織構築、改変を目指している。
	A	評価者：E	順調な進捗でPDCAのCができる段階に進んでいる。今年度は昨年度に比べ、この部分が足りないという分析が増えているが、これはCの段階にまで順調に進んでいる証であり、大いに評価したい。

2. URAについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	URAの活躍がよく機能していると思われる。
A	評価者：B	シニアURA、若手URAおよびアシスタントという縦の体制、3ブランチ各々の役割の明確化による分業という横の体制がうまく機能していると評価される。
A	評価者：C	研究力強化、先進医療ブランチの活動がしっかり成果をあげていること、医療系URAなど、URAの育成に向けた、独特の方向性を設定していることなどが、評価できる。
A	評価者：D	URA活動が素晴らしい。とりわけ、シニアURAがうまく機能している。
A	評価者：E	URAのサポート分野が多岐にわたるようになり、URAに多岐にわたるスキル要件が求められるようになってきている現在、求められるバックグラウンドをより明確化するとともに、URA間の学びあい、情報共有も強化し持続的に質の高い状態を保持する取組に期待します。また、今後URAの評価指標に基づく、人事評価の実施も期待しています。

3. URAの活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)研究費獲得ブランチの活動・実績について	A	評価者：A	研究費の獲得状況について詳細な解析を行っている。
	A	評価者：B	歯学部における科研費採択の増、AMED課題200件以上の採択など、当該ブランチの活動成果は良好と判断される。
	B	評価者：C	大型科研費の獲得はこれからの課題。

	A	評価者：D	うまく機能し、歯の科研費獲得の増加がみられた。
	A	評価者：E	若手研究者の採択率1位は素晴らしいと思います。
(2)研究強化ブランチの活動・実績について	A	評価者：A	順調に進んでいる。
	A	評価者：B	IR活動がアウトプットにポジティブに現れてきている。
	A	評価者：C	「IRに基づく歯学部の研究力アップ、世界ランキングの向上」は素晴らしい成果と思う。
	A	評価者：D	活動成果として、歯のQSランキングが上がった。
	A	評価者：E	公募研究者の分析、これに基づくターゲット教員層への集中的な支援活動、歯学分野ではQSランキングの分析とこれに基づく論文被引用数増加の取組など、分析的かつ組織的な取組を実行し、大きい成果をあげている。次年度以降、他分野も含め研究力強化の取組をされることを期待します。
(3)先進医療展開部ランチの活動・実績について	A	評価者：A	順調に進んでいると思われる。
	A	評価者：B	医師主導治験、侵襲を伴う介入研究などに進歩が認められる。
	A	評価者：C	医療イノベーション推進センターで担当を決めて、個別サポートを充実させている。
	A	評価者：D	取組が活発な実績をうんでいる。
	A	評価者：E	貴学URAに特徴的な取組で他大学に先駆けてモデルを作る位置づけだが、適切なバックグラウンドを要するURAを配置し、また医療イノベーション推進センターとよく連携し、着実に成果をあげている。

4. 広報活動について

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	Research Activities の発行など活発な活動を続けている。

A	評価者：B	インパクトのある広報活動や他学にも影響をもちうるワークショップ等イベント開催がなされている。
B	評価者：C	一般的広報は十分にやられていると思うが、国際的にトップ領域の研究者にどうアプローチしていくかが課題として残されていると感じた。
A	評価者：D	概要、bloom、HP など、情報発信にすぐれている。加えて英文の情報発信もなされている。
A	評価者：E	費用対効果をよく考えて意識的に対象を選択し取り組んでいる。

5. 研究者情報・IRについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	順調に進んでいる。
A	評価者：B	歯学の世界ランキングが3位にアップしたことはIRの成果と評価される。
A	評価者：C	歯学部の研究力向上に非常に貢献したと思う。
A	評価者：D	機能している。成果として、ランキングの上昇につながっている。
A	評価者：E	QS ランキングの分析とそれに基づく、論文被引用数増加のための取組など、戦略的かつ組織的な素晴らしい取組を行っていると感じられる。

6. その他、お気づきの点

評価者氏名	コメント
評価者：A	全般的に事業は順調に進められており、特に指摘すべきところが見当たらない、ワーキングシェア、外国人教育、新規大学院コースなどの取組につちえは、今後の発展を見守りたい。産学連携はきわめて順調と思われる。
評価者：B	出口＝エビデンスに立脚した自己点検に基づき、適切な軌道修正がなされている点は賞讃に値する。ダイバーシティとRU事業がうまく連携できているように、SGU 事業や重点支援の評価指標とその達成への取組と順当に連携できれば、さらに申し分ないと考えられる。
評価者：C	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体的に非常によい進捗を感じた。歯科・世界ランキング3位に上昇したことは朗報。全体の世界ランキング目標100位以内(現状101～150位)まであと一歩というのは立派なこと。 2. 個別には、特に各局面でのPDCAサイクルの設定が非常にうまいことに感銘を受けた。一方で真に世界的な大学となるためには、どう国際的にトップ領域にいる研究者にアプローチしていくかが結構重要課題のように感じた。 3. 中間評価をみすえ、個々の局面での「目標設定→対策→PDCA」のすばら

	<p>しい成果が、全体としてどういう体系で、マクロのアウトカム目標につながっていくのか、示せるとよい。その意味で、「より良い研究が生まれる体制作り」という大きな目標の設定は大事と思う。その際は URA だけではなく、領域性の全部内適用、融合プロジェクトとしての先端医歯工学領域研究部門の設置、医歯学総合研究科の新設なども、重要な要素となるのではないか。</p> <p>4. 本事業（及び文科省支援）が終了しても持続的に URA を雇用し、研究力強化という大きなパフォーマンスにつなげる体制を維持できるかも、中間評価及びその先をみすえて検討課題となろう。</p>
評価者：D	<p>的確にチェックして修正しながら当初のプラン達成に向けて努力している。予算が切れても、継続して PDCA サイクルを回して、より良くなって欲しい。</p>
評価者：E	<p>1. 医歯学研究成果の社会還元を強く意識し、医療イノベーション推進センターや疾患バイオリソースセンターの強化など、制度・仕組みに落とし込んでいく。先進医療ブランチャがこれらの組織とよく連携し、成果をあげていることに大いに注目しています。次の5年間は、先端医療展開ブランチャの取組の成果を評価・文書化とその経験を他機関にも生かせるように発信されることを望みます。これら URA の活動の重要性・成果の発信が、URA の・・・</p> <p>2. URA のサポート分野が多岐にわたり、これに伴い URA に対し、多岐にわたるスキル要件が求められるようになる。今後、URA に求められるバックグラウンド、スキル要件をより明確化するとともに、URA 間の情報共有も強化し、持続的に質の高い URA 人材を維持する取組に期待します。</p> <p>3. 研究論文の強化策として、領域制に基づく新たな取組を始めようとしている点にも期待します。</p>